

お客様を理解した対話を

お客様に寄り添い、プロフェッショナルとしてご対応する。
葬儀という文化を、たかはし葬儀社だからこそできる形で追求していきたいです。

たかはし葬儀社に入社する前は、ブライダルを主としたオーダーメイドジュエリーのアドバイザーでした。その後しばらく主婦に専念していましたが、子ども達の成長に伴い、就職活動を開始。主婦の間に経験したさまざまな「生」に刺激を受け、宝飾業界とは違う、生活に密着した仕事を探していきました。

そうしてパッと目に入ってきたのが、たかはし葬儀社でした。

10年ぶりの仕事にドキドキしながら面接へ。パートとして採用していただけることとなったのが2018年のことです。

けれど入社してから数ヶ月は、仕事に行くのが怖くて仕方がありませんでした。

葬儀はたった一度きりの儀式です。ましてや当時、葬儀の知識や経験は全くありませんでした。その結果、自信のなさから不安になってしまったのです。

そんな日々が変わったのは、入社して10ヶ月が経ったあたりからでしょうか。

その頃は、先輩スタッフの方々にさまざまなことを教えていただきつつ、お客様と接する機会も増えていた時期でした。

奥が深い葬儀の世界を、少しずつ知っていく日々。

知識の積み重ねから自信が湧いたのか、10ヶ月目のある朝、とうとう「今日は怖くない」と思える日を迎えることができました。

その後は感覚を掴め、葬儀スタッフとして、お客さまへお声がけをしたり、話しやすい雰囲気をつくつたりというご対応が自信を持ってできるようになっていきました。

あるご葬儀で、ほかのスタッフと協力し、お客様から「ありがとう」と感謝の言葉をいただいたときは、嬉しくてたまりませんでしたね。

お客様にお喜びいただけたこと、スタッフとうまくコミュニケーションを取れたこと。2つの嬉しい出来事が起きたこのご葬儀は、今も私の大事な原体験となっています。

それから数年経ち、現在は正社員として勤務しています。

私がこんなにも葬儀社のスタッフとして成長できたのは、お客さま、そして他のスタッフと日々のコミュニケーションを重ねてきたからこそです。

たかはし葬儀社は、創業して60年以上、地域密着を掲げ活動しています。地域からは、知らない人がいないくらい親しまれている葬儀社です。

このような地域の方々とのつながりは、これまでたかはし葬儀社のスタッフが、亡くなられた方だけでなく、その方を送る方のお気持ちまでも理解し、丁寧にコミュニケーションをとってきたからこそ築けたものだと思います。

私も、そんなたかはし葬儀社の一員として、そして葬儀のプロフェッショナルとして。これからもお客様のことを考え、寄り添い、親身にご対応していきたいと考えています。



The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共に生きる

Romi Hashiura

